

2008年11月4日

平成21年3月期 第2四半期決算の概要

シロキ工業株式会社

(輸送用機器 東証、名証第1部上場)

(*百万円未満以下切り捨てております)

1、平成21年3月期 第2四半期連結決算の概要

9月30日現在の当社の連結対象子会社数は国内5社、海外6社の計11社で、持分法適用関連会社は国内2社であります。

売 上

[7期連続で過去最高を更新。]

日本とアジアで米国をカバー]

当第2四半期累計期間の連結売上高につきましては、北米の大型車を中心とした自動車販売低迷による減産の影響があったものの、小型車・軽自動車向けの生産が堅調に推移した日本と成長著しいアジアがこれを補い、前年同期比3.6%増の712億7千9百万円で24億5千3百万円の増収となり、7期連続で過去最高を更新いたしました。

為替換算レートの影響と北米自動車市場低迷による生産減少により、米国は前年同期比14.6%減の128億9千1百万円で21億9千9百万円の減少となりましたが、日本がガソリン高を背景に小型車・軽自動車向けの生産が堅調に推移し、前年同期比7.6%増の531億4千9百万円で37億7千1百万円の増加となり、また中国、タイも好調を維持し、アジアは前年同期比20.2%増の52億3千8百万円で8億8千1百万円の増加となり、日本とアジアで米国をカバーいたしました。

得意先別では、主力のトヨタグループ向けが北米生産減少の影響により前期比2.0%減の459億9千9百万円で9億3千8百万円の減少となりましたが、スズキ(株)が「SX-4」や「パレット」など小型車・軽自動車向けの生産が堅調に推移し前年同期比16.8%増の58億7千3百万円で8億4千3百万円の増加となったほか、

第2四半期連結決算概要

(上段当第2四半期、
下段前年同期)

売上高：

712億7千9百万円
688億2千5百万円
(前年同期比3.6%増)

営業利益：

25億3千3百万円
17億2千9百万円
(前年同期比46.5%増)

経常利益：

25億4千7百万円
15億7千7百万円
(前年同期比61.4%増)

四半期純利益：

18億2千7百万円
12億1千4百万円
(前年同期比50.5%増)

1株当たり当期純利益：

20円61銭
13円69銭

海外売上高比率：

25.9%
28.7%

設備投資：

26億9千3百万円
21億3千8百万円
(前年同期比26.0%増)

減価償却費：

29億7千万円
29億4千万円
(前年同期比1.0%減)

日産自動車(株)が「エクストレイル」など九州生産の新型車向けの増産などにより前年同期比16.4%増の49億9百万円で6億9千万円増加し、また製品別では、主力製品のドアサッシが前年同期比8.2%増加するなど、小型車・軽自動車向けの増産効果とともに、得意先自動車メーカーへの拡販活動や新規受注品の新製品効果などにより、順調に売上を伸ばすことができました。

* 5月13日に公表いたしました期初予想の売上高720億円(前年同期比4.6%増)に対しては1.0%減となりました。なお、10月27日に、5月12日公表の期初予想の修正をお知らせしております。

国内売上

国内につきましては、主力のシロキ工業が前年同期比で7.5%増の530億8千1百万円で36億9千5百万円の増収となり、3期連続で過去最高の売上高となりました。これは主として小型車・軽自動車向けの生産が好調に推移したことや、新型車向けの増産などが寄与したためであります。

* 5月13日に公表いたしました個別期初予想の売上高518億円(前年同期比4.9%増)に対しては2.5%増となりました。なお、10月27日に、5月13日公表の期初予想の修正をお知らせしております。

海外売上

米国につきましては、円高による為替換算レートの影響と大型車を中心に北米市場冷え込みによる得意先自動車メーカーの生産減少などの影響によって、シロキノースアメリカ(テネシー州)が前年同期比14.4%減の129億2千1百万円で、21億6千9百万円の減収となりました。

アジアにつきましては、中国では現地トヨタ自動車の「カムリ」や日産自動車の「ティーダ」向けの生産増加などによって、広州白木自動車部品(広州市)が前年同期比21.2%増の27億9千4百万円で4億8千8百万円の増収となりました。また、タイでは現地トヨタ自動車の「カムリ」や三菱自動車の「ストラダ」向けの生産増加が寄与し、

地域別売上高

・日本	531億4千9百万円 493億7千8百万円 (前年同期比7.6%増)
・米国	128億9千1百万円 150億9千万円 (前年同期比14.6%減)
・アジア	52億3千8百万円 43億5千7百万円 (前年同期比20.2%増)
・合計	712億7千9百万円 688億2千5百万円 (前年同期比3.6%増)

得意先別売上高

・トヨタG	(64.5%) 459億9千9百万円 469億3千7百万円 (前年同期比2.0%減)
・売上高上位3社	
トヨタ自動車	(35.5%) 252億9千6百万円 261億6千3百万円 (前年同期比3.3%減)
スズキ	(8.2%) 58億7千3百万円 50億2千9百万円 (前年同期比16.8%増)
日産自動車	(6.9%) 49億9百万円 42億1千8百万円 (前年同期比16.4%増)

* 社名横の()内は売上構成比率

主要製品別売上高

シートリクライナ・	
シートアジャスタ	(36.3%) 258億9千9百万円 258億2千9百万円 (前年同期比0.3%増)
ウインドレギュレータ	(29.4%) 209億7千2百万円 205億9千3百万円 (前年同期比1.8%増)
ドアサッシ	(17.9%) 127億4千1百万円 117億7千8百万円 (前年同期比8.2%増)

* 製品名横の()内は売上構成比率

シロキタイランド(チョンブリ県)が前年同期比17.8%増の24億4千5百万円で3億6千9百万円の増収となりました。

利益

【合理化活動や「中計」の取り組み効果などで

利益いずれも過去最高】

利益につきましては、日本、アジアでの売上増加による限界利益増加と徹底した合理化活動による収益改善効果に加え、懸念材料だった原材料および原油等の市場変動による影響が当期後半からの発生で当期においては限定的であったことや、本年4月より開始した新中期経営計画「シロキビジョン2012」に基づく生産性向上活動の効果が寄与し、営業利益は前年同期比46.5%増の25億3千3百万円で8億4百万円の増益となりました。また経常利益は前年同期比61.4%増の25億4千7百万円で9億6千9百万円の増益となり、四半期純利益も前年同期比50.5%増の18億2千7百万円で6億1千3百万円の増益となり、この結果、営業、経常、四半期純利益ともに過去最高の利益をあげることができました。

*5月13日に公表いたしました営業利益16億円(前年同期比7.5%減)の期初予想に対しては58.3%の増、同じく経常利益16億円(前年同期比1.5%増)の期初予想に対しては59.2%増、また四半期純利益11億円(前年同期比9.4%減)対しても66.1%増となりました。個別業績予想につきましても営業利益3億円(前年同期比50.2%減)の期初予想に対しては217.0%増、経常利益7億円(前年同期比20.5%減)に対しては103.1%増、四半期純利益5億円(前年同期比28.2%減)に対しては57.0%増となりました。

なお、10月17日に、5月13日公表の期初予想の修正をお知らせしております。

設備投資：

20億4千1百万円(前年同期比21.9%増)

減価償却費：

22億2千万円(前年同期比0.5%減)

主要会社別売上高

シロキ工業

530億8千1百万円

493億8千5百万円

(前年同期比7.5%増)

シロキノースアメリカ

129億2千1百万円

150億9千万円

(前年同期比14.4%減)

広州白木自動車零部件

27億9千4百万円

23億6百万円

(前年同期比21.2%増)

シロキタイランド

24億4千5百万円

20億7千6百万円

(前年同期比17.8%増)

セグメント別営業利益

・日本

11億9千8百万円

6億3千3百万円

(前年同期比89.1%増)

・米国

2億8千6百万円

2億9千8百万円

(前年同期比3.8%減)

・アジア

8億4千2百万円

5億8千6百万円

(前年同期43.7%増)

・消去又は全社

2億5百万円

2億1千万円

(前年同期2.4%減)

・合計

25億3千3百万円

17億2千9百万円

(前年同期比46.5%増)

個別決算概要

売上高：

530億8千1百万円

493億8千5百万円

(前年同期比7.5%増)

営業利益：

9億5千1百万円

6億3百万円

(前年同期比57.6%増)

経常利益：

14億2千2百万円

8億8千1百万円

(前年同期比61.4%増)

四半期純利益：

7億8千5百万円

6億9千6百万円

(前年同期比12.8%増)

2、平成21年3月期通期連結業績予想について

売 上

〔世界的な需要低迷のなか微減を予想〕

今期の連結の通期業績予想につきましては、北米市場の低迷に加え、金融危機に伴う需要低迷が世界にも広がりを見せ、成長著しい新興市場も減速感が鮮明となり、また円高もあり、今後の自動車業界を取り巻く環境は一段と厳しさを増すものと予想されますが、拡販に努め、通期売上高は前期比1.1%減の1,420億円で15億5千7百万円の微減を見込んでおります。

*5月13日公表いたしました期初の連結業績予想の通期売上高1,450億円(前期比1.0%増)に対しては、2.1%減の下方修正するものであります。

国内売上

大型車を中心に輸出向けの生産が大幅に減少するものの、小型車・軽自動車向けの生産は底堅く推移し、鋼材の市況変化に伴う価格引き上げなどにより、主力のシロキ工業の通期売上高は、前期比0.6%増の1,060億円で6億5千7百万円の微増にとどまるものと予想しております。

*5月13日公表いたしました期初の個別業績予想の通期売上高1054億円(0.1%増)に対しては、0.6%増の上方修正するものであります。

海外売上

北米は引き続き市場低迷が予想されるため、シロキノースアメリカの通期売上高を前期比15.3%減の242億円で43億5千8百万円の減収を予想しております。

アジアでは、成長に陰りが見られるものの中国の広州白木自動車部品が通期売上高を前期比24.3%増の61億円で11億9千1百万円の増収を予想しております。また、タイのシロキタイランドも通期売上高は前期比2.0%増の48億円で9千2百万円の増収を予想しております。

通期連結予想

(*上段通期予想、下段前期実績)

売上高:

1,420億円
1,435億5千7百万円
(前期比1.1%減)

営業利益:

35億円
50億5千8百万円
(前期比30.8%減)

経常利益:

32億円
39億3千1百万円
(前期比18.6%減)

当期純利益:

19億円
29億7百万円
(前期比34.6%減)

1株当たり当期純利益:

21円43銭
32円77銭

海外売上高比率:

25.3%
27.0%

設備投資:

87億4千2百万円
68億4千9百万円
(前期比27.6%増)

減価償却費:

61億6千万円
60億9千7百万円
(前期比1.0%増)

会社別売上高予想

シロキ工業

1060億円
1,053億4千3百万円
(前期比0.6%増)

シロキノースアメリカ

242億円
285億5千8百万円
(前期比15.3%減)

広州白木自動車部品

61億円
49億9百万円
(前期比24.3%増)

シロキタイランド

48億円
47億8百万円
(前期比2.0%増)

利 益

〔一段と厳しい経営環境のもと、減益幅増で予想を修正〕

利益につきましては、国内の生産台数減少に加え、引き続き円高や高止まりする原材料価格などの影響もあり、通期営業利益は前期比30.8%減の35億円で15億5千8百万円の減益を予想しております。また、通期経常利益は前期比18.6%減の32億円で7億3千1百万円の減益、当期純利益は34.6%減の19億円で10億7百万円の減益を予想しております。

* 5月13日に公表いたしました通期連結業績予想の営業利益42億円(前期比17.0%減)に対して、16.7%の減、経常利益40億円に(前期比1.8%増)対し、20.0%の減、また当期純利益28億円(前期比3.7%減)に対し、32.1%の減、とそれぞれ下方修正するものであります。

* 個別業績予想につきましても、営業利益12億円(前期比49.5%減)に対して16.7%減、経常利益20億円(前期比7.2%減)に対して15.0%減、当期純利益13億円(前期比2.3%減)に対して69.2%減、それぞれ下方修正するものであります。

当社グループは今後も、競争優位性を維持し、収益基盤を再構築し、継続的成長をはかってまいりべく中期経営計画「シロキビジョン2012」に取り組み、経営体質強化、業績向上に努めてまいります。

以 上

通期個別予想

売上高：

1,060億円

1,053億4千3百万円

(前期比0.6%増)

営業利益：

10億円

23億7千6百万円

(前期比57.9%減)

経常利益：

17億円

21億5千5百万円

(前期比21.1%減)

当期純利益：

4億円

13億3千1百万円

(前期比69.9%減)

設備投資：

71億4千8百万円

37億8千9百万円

(前期比88.7%増)

減価償却費：

46億7千7百万円

46億3千8百万円

(前期比0.8%増)

この件のお問い合わせは：

シロキ工業株式会社(0533)84-4691

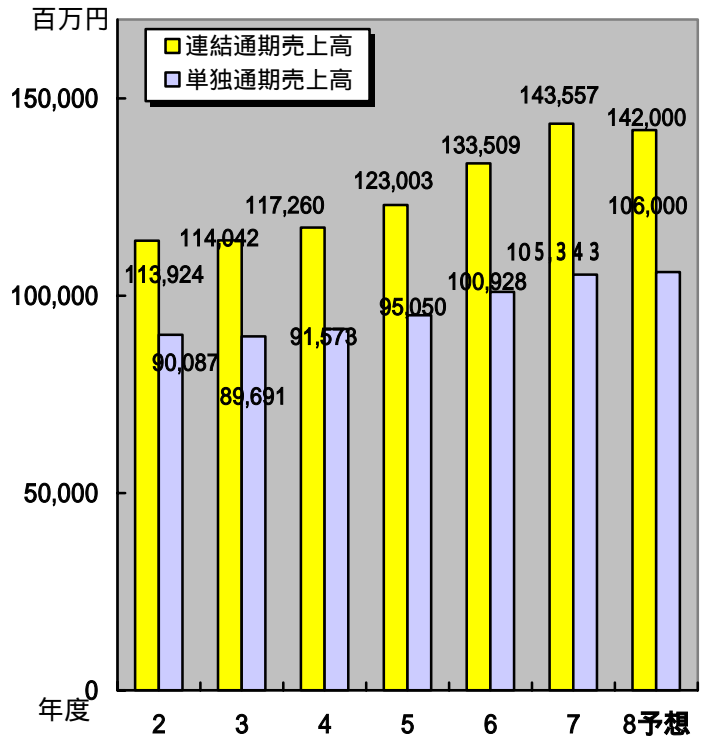
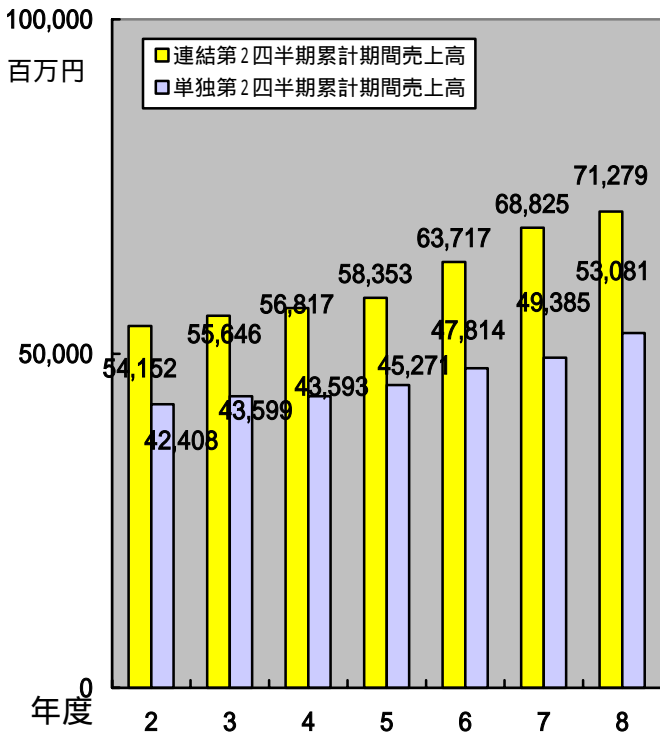
常務取締役経理部長 大石
総務部広報担当 眞野 まで

業績推移

シロキ工業株式会社

連・単売上高推移（第2四半期累計期間）

連・単売上高推移（通期）



連結利益の推移（第2四半期累計期間）

連結利益の推移（通期）

